

3 主な取組の成果

(1) 地域(自治体)経営改革

地域のみんで作り上げた小田野中央公園

(57 地域が公園を生み育てるしくみづくり)

公園のデザインづくりといった企画段階から植栽や遊具の設置などの造成作業まで、公園づくりに関することを地域と協働で進める「手づくり公園」事業。小田野地区では、複数の町会自治会と地元の福祉施設が主体となって、「小田野中央公園をつくる会」を結成し、地元の小学生も参加する中でワークショップや現地での作業を重ね、20年3月に手づくり公園が完成しました。



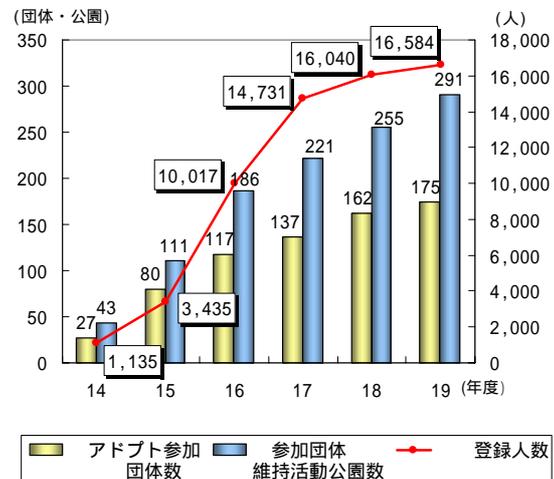
「小田野中央公園をつくる会」の主な取組

公園づくりのためのアンケート実施
(10の町会に2,200部)
3つのワーキンググループ立ち上げ
①河川沿い道路桜並木整備グループ
②子ども遊び場作りグループ
③公園のシンボル作りグループ
ワークショップを10回開催し、延べ
1,159人が公園づくりに参加
公園づくりの経過を地域に発信するた
めの「ニュースレター」を発行



参加が広がる公園アドプト制度

地域にある公園をより身近に親しみやすく感じてもらえるよう、住民が維持管理することができる「公園アドプト制度」は、参加団体が年々増加しています。もう1つの手づくり公園である子安濱村こかげ公園では開園後もアドプト制度によって、地域の人々に愛されながら大切に育てられています。



地域が中心となった災害への備え

(55 自主防災組織の拡充)

災害時の初期対応には「地域の力」が不可欠です。地域の防災力を最大限に発揮して災害発生後の被害拡大を防ぐために、町会・自治会等と連携して「自主防災組織」の拡充に取り組みました。

多くの地域での防災意識の高まりと、防災課職員が町会自治会等の集まりなどで、その必要性や立ち上げの方法を説明したことにより、この3年間で自主防災組織の結成数が大幅に増加しました。



市では、自主防災組織結成の支援として、防災資機材の助成やリーダー的な役割を担う防災指導員の育成研修を行っています。



防災指導員育成研修をのぞいてみました

初動対応訓練の実技を実施 ▶▶▶

防災資機材は、整備しただけで安心してしまうと、いざというときに使い方もわからず、慌ててしまいます。そこで、八王子消防署との連携により、資機材の取扱実技の訓練を行っています。



器具を使ったコンクリートの破壊体験



AEDの使用方法についても学びます

◀◀◀ 実技研修に普通救命講習を追加

災害などで救急車が到着するまでの間に、近くに居合わせた人たちが応急措置をすることで、助かる可能性が高まります。19年度から止血法や心肺蘇生について正しい知識を得るために、普通救命講習を開催しています。

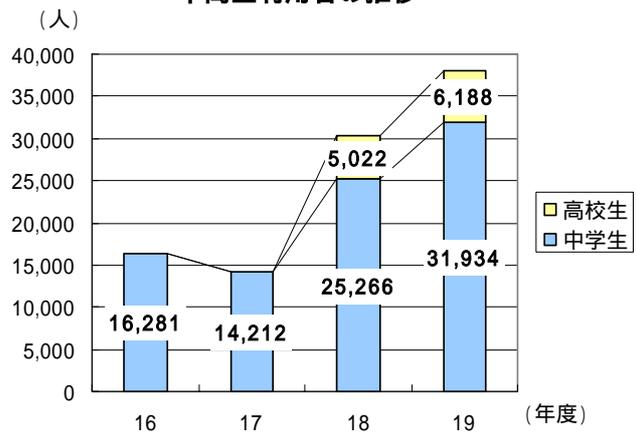
児童館から広がる世代間交流、地域交流

(25 地域における子ども自身の育ちを支援するしくみづくり)

地域の子どもたちの自立「子育て」の拠点となることをめざし、18年4月より児童館の利用対象や開館時間を拡大しました。0歳から18歳（高校生）まで利用できる、より多くの子どもたちの安全で身近な遊びや相談の場所として、児童館を充実させました。

中高生が自主的に事業を企画・準備・運営し、そこに地域の市民も参加するなど、児童館を核にした地域の輪が広がっています。

中高生利用者の推移



中高生企画事業の一例



◀◀「児童館・こどもシティ」

来場したこどもが、お店を開店する店主、給料をもらう店員、買い物をするお客さんとなり、働くことを体験できる企画。おとなや高校生は、副店長として、働く小学生にお店の仕事を教えたり、小学生の社長の指示で経営に協力します。

「みんな Enjoy わくわくステージ」 ▶▶

中高生が、日頃、児童館で練習を重ねているバンド演奏などのパフォーマンスを披露する企画。プログラムの企画から、司会、受付などの運営まで中高生が中心となって実施しています。



民間企業が設置し運営する「フットサルコート」がオープン！

(13 最少の経費で最大の効果をあげるための行政サービスの提供方法の検証)

16年6月に都市公園法が改正され、公園管理者以外の者による施設の設置・管理が可能となりました。そこで市は、利用者が減少し老朽化が進んだ富士森公園プールを16年度で廃止し、競技人口が増え需要が高まっているフットサルコートを民間資源を活用して開設。都市公園内での民間企業による施設の設置・運営は全国初の試みとして話題となりました。

また、プール利用者のニーズには、小中学校のプールの夏季一般開放を拡充することで対応し、地域と学校を結びつける「開かれた学校づくり」の取組も同時に進めています。



- 民間企業のノウハウを活かしたサービスを効率的に提供
- 公園の占有使用料として、市の歳入が増加

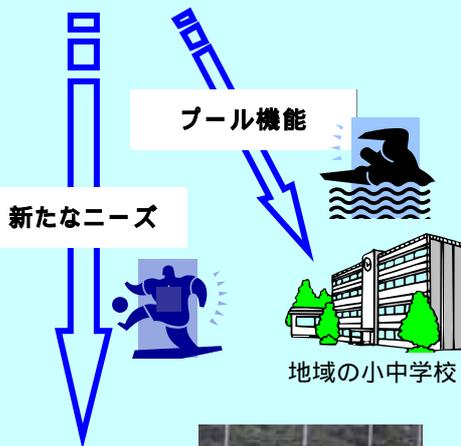


富士森公園クーバー・フットボールパークで聞きました

▶開設時から運営に携わる八王子富士森公園
クーバー・フットボールパークの高見浩之支配人



富士森公園プール



フットサルコート

Q：開設にあたっての苦労は？

A：支配人に就任したのは開設2か月前のこと。開設までの短い期間で当施設をPRすることはとにかく大変でした。また、プールと違い季節を問わない施設ですし、周辺地域への騒音の配慮にも力を入れました。

Q：運営で工夫していることは？

A：フットサルは一人ではできないスポーツです。これまでのノウハウを活かして、チームはもちろん、個人でも気軽に利用できるような運営に努めています。

Q：どのような施設にしたいですか？

A：たとえば幼稚園の運動会などでもご利用できますし、健康づくりの場としても、老若男女問わず多くの方に気軽にご利用いただきたいですね。

もっと市民参加しやすい環境づくり（市民参加条例の制定）

（ 1 市民自治のしくみづくり）

市民の市政への参加を推進するため、基本的な手続きを定める条例「八王子市市民参加条例」を制定しました。条例施行は20年10月です。

条例の主な内容

- ・ 市民自治の基本原則（前文）
- ・ 市の責務
- ・ 市民の責務
- ・ 市民参加の方法

- ① パブリックコメント
- ② 審議会等
- ③ 市民会議
- ④ ワークショップ
- ⑤ 公聴会、説明会
- ⑥ アンケート調査等その他

市民発！国際チェロコンクールをきっかけとした市民・企業・行政の連携

（ 47 企業と連携した文化・芸術活動の支援）

市民が主体となり、企業や行政と連携し実行委員会を組織して「ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール in 八王子」を開催。大会の運営や出演者の宿泊の受入など、市民ボランティアが中心となって実施されました。

コンクール後も、まちなかや小中学校などでミニコンサートを実施しています。



第1回大会で優勝した
ソンミン・カンさん



小学校でのコンサートも大人気



思わず耳を傾ける
まちなかコンサート

「ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール」とは

ガスパール・カサドは20世紀を代表するチェロ演奏・作曲家です。その名を冠したチェロコンクールは、カサドの妻であった故・原智恵子さんが若く優秀な音楽家の発掘と育成のためにカサド没後の1969年にイタリアのフィレンツェで第1回目を開催。1990年の第10回を最後に幻のコンクールとなってしまいましたが、最期の時を多摩地域で過ごした故・原智恵子さんの遺志は、市民有志によって引き継がれ、本コンクールの実行委員会によって16年の歳月を経て復活しました。

若手経営者たちがまちを元気に

(69 商業者を中心とした創意工夫のにぎわいづくり)

意欲的な経営者が専門的なノウハウを学ぶことのできる「あきんど講座」を開催し、商売について実践的に学ぶとともに、商いからまちづくりのリーダーとなる「あきないリーダー」を育成。講座の修了生からは、周りの仲間とともに「まち全体を元気にしたい」という視点から自主的な活動が次々と広がっています。



若手経営者たちが個性あふれるマップを作成

ショップカードの作成、勉強会の開催など、お店の経営者たちによる活動が広がっています。

八王子のまちを楽しむきっかけとなるよう、さまざまなコンセプトで作られたマップが注目されています。



個性あふれるマップの数々

市民・事業者・市が連携したごみの減量への取組

(85 発生抑制推進事業者のPR)(87 地域ぐるみのごみ発生抑制)

分別やマイバッグの利用などを通じてごみの減量に取り組む市民、レジ袋の削減・簡易包装・環境に配慮した商品の販売などに取り組む事業者、及び戸別訪問によるマイバックの配布を通じて啓発活動などを行う市が、三位一体となってごみ発生抑制のしくみの構築に努めました。

○環境省によると人口 50 万人以上の自治体において、
「リデュース*」部門で2年連続、「リサイクル」部門
で3年連続、全国第1位 (*一人一日あたりのごみ量)



マイバッグの普及を促進



エコショップでは、
お店独自の「エコ」を
積極的に展開



適正な管理がされてい
る集合住宅の集積所
は優マーク